



～優しく、強く、愛しい人の育成を目指して～

市では、焼津市の未来を支える子どもたちのために、手厚い教育環境を整えて、一人一人の子どもの「心に灯をともし教育」を実践しています。現在は小学校1年生からパソコンを活用した授業を行ったり、教室や特別教室にエアコンが設置されたり、多様な役割を持った人が学校の教育活動で子どもたちへの支援をしたりと、社会の変化に伴い学校の姿も変わってきています。焼津市の教育の『今』をお知らせします。

問合先 学校教育課 ☎625-8160

教育の「今」 1 焼津市の教育が目指している姿

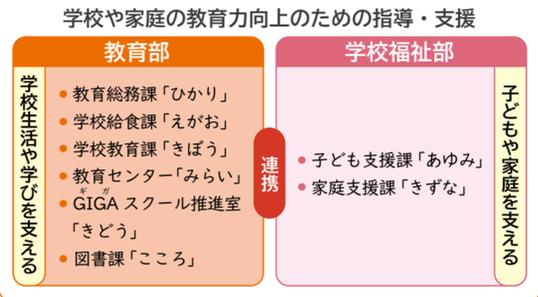


子どもたちが、これからの時代を生き抜き、輝いていくためには、自分自身を知り、世の中の多くのことに興味や関心を持って積極的に挑戦する姿勢が大切です。そして、その挑戦の過程で生じる困難やつまずき・失敗がとても大切な経験となります。目の前の壁に自らの力で立ち向かう経験があつてこそ、真の強さや優しさを身に付け、人から愛され信頼される愛しい人へと成長していきます。

そのため、市では、「焼津市教育大綱」を制定し、子どもたちが「優しく、強く、愛しい人」になることを目指しています。

全国的に見ても手厚く充実した本市の組織体制（右図）が、子ども、家庭、学校を支え、理念の実現につながっています。

焼津市教育委員会の組織体制



教育の「今」 2 地域の人と一緒につくる学校

新学習指導要領（令和2年度～）では、「より良い学校教育を通じてより良い社会を創る」という理念を学校と社会が共有し、連携・協働しながら子どもたちを育む「社会に開かれた教育課程」の実現を重視しています。市では、地域の皆さんと一緒に学校をつくり、子どもを育てています。

地域の力が学校の力につながる コミュニティ・スクールが発足

市では、令和5年度から全中学校区で「コミュニティ・スクール（以下、C・S）」がスタートしています。

C・Sは、保護者や地域の皆さんが学校運営に参画し、より良い教育を行うことを目的としています。地元のお祭りや海岸清掃を地域の皆さんと一緒に行うなど、学校の外に飛び出して豊かな学習が行われています。子どもたちの姿に大人も元気をもらい、そんな「好循環」が生まれています。



東益津地区C・S

学校部活動からの移行 焼津ならではの「地域クラブ活動」



やいづ海洋クラブ

市内中学校の部活動は、各中学校の枠を超え、地域の皆さんから指導を受ける「地域クラブ活動」に段階的に移行しています。これにより、海や水産について学ぶ「やいづ海洋クラブ」など、従来の部活動種目にはない、焼津ならではのクラブ活動が生まれるなど、子どもたちの多様なニーズに応える体制づくりが進んでいます。

参加者の声

やいづ海洋クラブ
堀江優太さん(小川中3年)

- ボート体験や釣り、船の見学など、3年間のさまざまな活動を通して、焼津の水産系の魅力を自分も発信したいと思うようになりました。
- いろんな学校に友だちができることも地域クラブ活動の良さだと感じています。



参加者の声

東益津地区C・Sディレクター
平井正也さん

- 地域は『楽校』です。生きがいを感じる大人と共に、地域の自然や歴史や文化に触れ合いながら、楽しく遊び、豊かに学び、地域が大好きな子に育ってほしい。そして、子どもたちと共に、地域の皆さんにも、地域で活躍し役立つ喜びを味わってほしいと願っています。



教育の「今」 3 子どもを大切にして、成長を支える学校

市では、「子どもの学習支援」「全ての子どもたちの学び」「安心・安全・快適な学校環境」の3つのことを大切に、さまざまな取り組みを実施しています。ここでは、市の代表的な取り組みを紹介します。

一人一人に寄り添う丁寧な指導 きめ細やかな学習支援



算数が難しくなってくる小学3年生を対象に、放課後学習支援「ステップアップ教室」を全校で実施し、一人一人のつまずきに丁寧に対応しています。また、小学6年生と中学1年生には、夏休み期間中に「サマーステップアップ教室」を行っています。

低学年から学習を支援 低学年サポーターが充実



小学校では、多くの「低学年サポーター」を教室に配置し、学校生活の基盤となる低学年でのきめ細やかな学習支援を実施しています。また、特別支援学級や小学3年生以上の教室にも支援員を配置しています。

英語アシスタントティーチャー(ALT)が充実 英語学習をサポート



英語アシスタントティーチャー（ALT）が、小学校では全ての英語の授業に入り、中学校でも英語の学習をサポートしています。早い段階から本物の英語に直接触れることで、子どもたちが英語や外国の文化に興味を持てる環境を整えています。

子どもたちの情報活用能力を伸ばす指導 パソコン活用率が全国2倍



各校の授業でパソコンを積極的に活用しています。今年度の全国調査で「授業でほぼ毎日パソコンを使用」と回答した子どもが、小学校では50.0%（全国平均25.3%）、中学校では58.9%（全国平均31.0%）と、全国平均のほぼ2倍でした。

個別最適な学びを支える AIドリルの活用



パソコンで使用できるAIドリルを、一人一台ずつ全小中学校に導入しています。児童生徒の理解度や習熟度に応じた学習の実現につながっています。学年をさかのぼったり、飛び越したりすることも可能で、個別の予習・復習に対応しています。

「心の教室」・「チャレンジ教室」の設置 安心して学べる居場所



全小中学校に「心の教室（校内教育支援センター）」を設置しています。また、焼津、大井川に続き、東益津にも「チャレンジ教室」を新設し、多様な学び方や安心できる居場所づくりに力を入れています。

日本語習得や学習・生活への支援 外国につながる子への支援



外国につながる児童と保護者を対象に、小学校入学前に「プレスクール」を開催し、日本の学校生活を体験する機会を設けています。その他、学校への支援員の派遣など、さまざまな支援をしています。

学習に集中できる環境づくり エアコン設置・トイレ洋式化



全ての普通・特別教室にエアコンの設置が完了しており、1年を通じて快適に学習できます。全小中学校の体育館へのエアコン配備も順次進めています。全小中学校の校舎トイレ洋式化は、令和7年度末までに完了します。

ミストシャワー設置・冷却パッド配布など 猛暑から子どもを守る



子どもたちを熱中症から守るため、全小中学校の校庭などへのミストシャワーの設置をはじめ、ランドセルに取り付ける冷却パッドや首に巻くクールタオルの配布など、子どもたちの健康を守る取り組みを積極的に行っています。

子どもが真剣に楽しむ授業

市内小学校の、あるクラスの様子です。心に灯をともし教育現場を見てみましょう。



■思いがあふれ、対話する子どもたち

5年2組の4時間目は算数の授業です。子どもたちは、生田先生が狙ったとおり、「どうしてだろう?」と自ら強い問題意識を持ち、生田先生が用意した資料などを参考に自分で方法を決めて一生懸命考えます。考えが固まってくると周りの子に声を掛け始め、自然な話し合いが始まります。「何でそうなるの?」「私の考えは」…質問に答える子は、相手が分かるように図を指し示したり、言葉を変えたりして説明を重ねます。「解決したい」とか、「自分の考えを伝えたい」な

どといった子どもたちの思いがあふれ、自然な対話が生れます。生田先生は、子どもの自主性を重んじて黙って聞いていたり、積極的に発言できない子の背中を押してあげたりと、子どもに合わせた確かなフォローをしています。

■子どもの心に灯をともし

この5年2組では、子ども同士が聞いては考え、話しては考えを繰り返して学びが深まっていきます。生田先生は、子どもたちの心に灯をともし、場や環境を整えて、子どもたちが真剣に心から楽しめる授業をつくらうと努めているのです。

教育コラム